



双塔

カトリック新潟教会

2016年10月
No. 341

引き出しに眠っているロザリオ

主任司祭 ラウル・バラデス

この度、ある方と一緒に事務室の片付けをしていたら、本棚の引き出しからプラスチックの小箱が出てきました。中には、様々な形とサイズのロザリオが入っていました。私はいつごろから、それらを引き出しに納めていたのか思い出せません。たぶん、一つ一つに思い出があって、捨てる訳にはいなくてそのまま小箱に納めておいたのだと思います。

正直に言えば、最近までロザリオの祈りについての子供時代の思い出は、楽しいものではありませんでした。それは遊ぶ時間の終了の合図だったからです。その思い出は特に夏休みの間のことです。

毎日のように、祖父の家に従兄弟たちと集まって遊んでいました。日が沈み始めるころ、祖母は杖で子どもを捕まえます。捕まった何人かは、ロザリオの祈りを最後まで祖母と一緒に唱えないと家に帰れないのです。捕まった時は、嬉しそうに先に帰って行く従兄弟たちの後ろ姿に非常に悔しい思いをしました。

意向は「家族、司祭と召し出し、司祭を辞めた人、貧しい人、病人のため」と、だいたい決まっていて、早口で唱えようとしたら必ず叱られます。子どもにとって、祈りより忍耐力を鍛える時間でした。しかし、大人になって従兄弟と会う度に、しばしばそのときの話が出てきます。誰が足が早くて殆ど捕まらなかった、逆に誰が常に捕まったか、途中で逃げだした子の話など、時間とともにあの悔しい気持ちは楽しい話に変わってきたようです。

引き出しから出てきたロザリオの小箱を開けることは、思い出の箱を開けることになった感じがします。ある意味で「ロザリオの月」も全教会の歴史の中で思い出の箱のようなものだと思います。しかし、それは単なる何かの過去の出来事を思い起こすのではなくて、記念することです。人間の過去の記憶には期待は含まれていませんが、教会の記念には過去、現在、未来も込められています。16世紀、レパントの勝利の時に祈りの力によって多くの命が守られたように、今も多くの方の祈りの力によってこの世界が支えられています。これからも神様の力を信じて、信頼をもって教会は未来に向かっていきます。

1883年（明治16年）に教皇レオ十三世が「ロザリオの月」を定めてくださって以来、この祈りの精神がリレーのように引き継がれてきました。親から子ども、そして孫の代にも、ロザリオの祈りは捧げられてきました。現代を生きる私たちも歴史の中でこのリレーに参加しています。バトンを落としたら、すべてが終わってしまいます。選手と同じようにバトンパスをしっかりと訓練して前に向かって力強く走るべきだと思います。この世に悪と苦しみがある限り、祈りのバトンを握りしめて走り続ける使命が与えられています…救いの業が完成されるまで。

今年、「ロザリオの月」にあたって、ホコリとサビで汚れて、どこかの引き出しに眠っているロザリオを出してみたらどうですか。ロザリオについた汚れを、祈りの時に手の汗で洗い落として、糸が切れてバラバラになるまで祈りに使ったらどうでしょうか。それはわたしたち、信者のリレー競技のバトンです。もしかすると銅メダルを獲得できるかもしれません。祈りの金と銀のメダルはもう既にイエスと聖母マリアの御手にあるからです。

そよかせ便り

■ 月曜会 ー秋田の聖母を通して祈る会ー ---- 9月12日(月) 11:00 ~ ----

毎月1回、小聖堂で、小教区を超えた祈りの会『月曜会』が行われている。30年ほど前、伊藤庄治郎司教様のもとで、秋田の聖母を通して祈り、学ぶ会が月曜日に行われたことからこの名称がついた。

その後は佐藤敬一司教様、そして菊地功司教様に引き継がれ今日に至っている。

祈りの意向は「聖母マリアを通して世界に神への回心の恵みを求める」、「教皇、司教、司祭の協力一致」、「司祭、修道者の召命」、「東日本大震災被災者」、「病気や困難に苦しむ人々」、「家族や友人に祈りを約束した人々」などのために祈る。

この日も、司教様の司式でミサが捧げられ、ミサ後はロザリオの祈りが唱えられて、小聖堂は静かな祈りの雰囲気満たされていた。あなたも、一度参加されてはいかがでしょうか。詳細は月曜会会員にお問い合わせを。

※今後の予定：10/17、11/7、12/5 (いずれも 11:00~)

「聖体奉仕会修道院聖堂」(秋田市添川湯沢台)の木彫の聖母像

1975年から7年間で、101回も涙を流された。2013年の『聖母とともに過ごす祈りの夜』では、世界10カ所の“聖母巡礼所”の一つに。毎年9月14、15日に『秋田の聖母の日』が開催される。



■ 敬者ミサ ---- 9月18日(日) ----

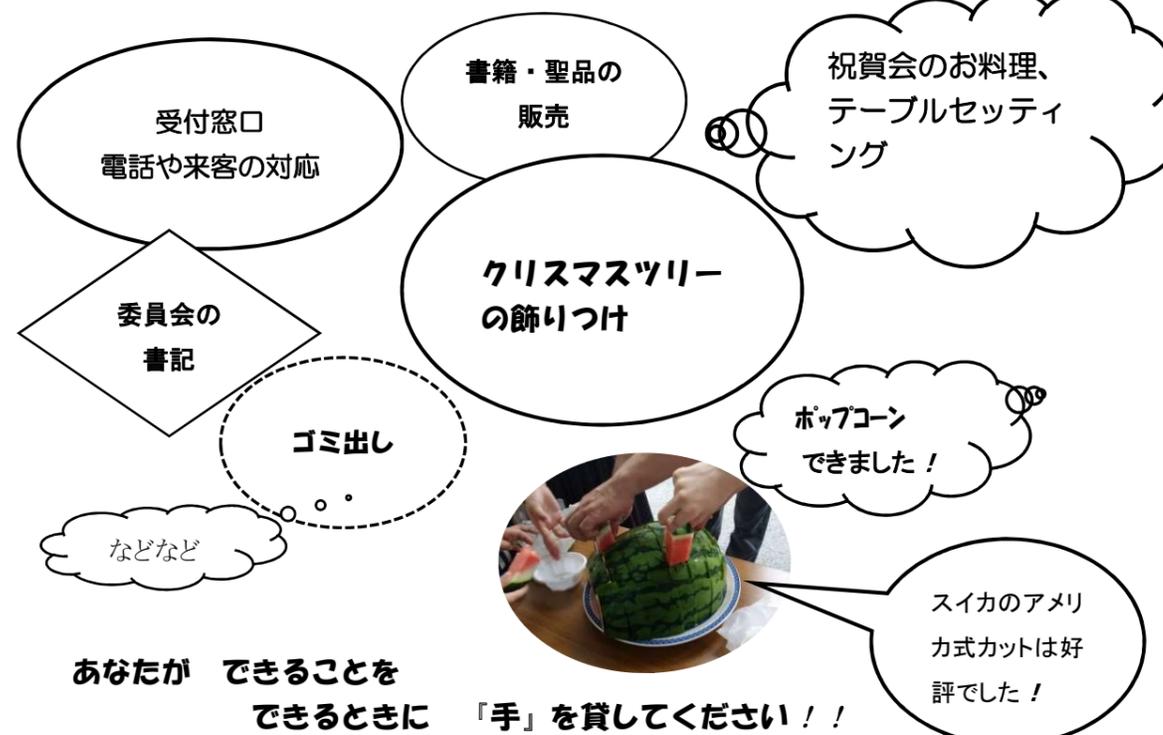
連休とあって、普段見かけない家族連れなどが目を引く聖堂で、ラウール神父様の司式によりミサが捧げられた。

神父様は「神の恵みを体験した私たちは、神と富の両方に仕えることはない」と話された後、今年の御絵のみことば(詩編92)について説明され「いきいきと生きることとは、神との絆を大事にすること。そうすれば年をとっても、病気になっても、なつめやしのように実を結び、次の世代に伝えることができる」と結ばれた。

ミサ後はセンター1Fに奇麗に盛付けられたケーキやフルーツ、飲み物などが用意され、話に花が咲くひと時だった♪

みんなの広場

今月の“活動紹介”は八面六臂の活躍『総務部』をご紹介します!



カトリック新潟教会 月刊「双塔」 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町656 TEL: 025-222-5024 FAX: 025-222-5054 <http://www.niigatacathedral.org>

